

フィックスシリーズ 軽量・速硬性ポリマーセメントモルタル

フィックス LS (ライトスペシャル)

フィックスLSは、速硬性セメント、軽量骨材、耐アルカリ性ガラス繊維を主体とした無収縮性無機質材料に、特殊高分子エマルジョンを配合し、**作業性を重視**して開発したコンクリート欠損部の断面修復材です。特殊セメント分野で優れた実績を持つ弊社が開発した作業性改善技術により、従来のポリマーセメントモルタルの最大の欠点であった**コテ引きを解消**しています。

特長

- ▶ **優れた作業性**
ポリマーセメントモルタル特有のコテ塗り時のベタツキを無くしたため、コテ伸びやコテ離れに優れています。又天井部の施工においても、薄塗りはもちろんのこと、30mm以上の厚塗りも可能です。吹き付け作業においても変形能が高いため、リバウンドロスを20%以下に抑えることが可能です。
- ▶ **速硬性**
長い可使用時間を持ちながら、硬化が始まると急激に強度を発現します。気温によって異なりますが5℃以上であれば3～6時間で実用強度に達します。
- ▶ **優れた接着力**
特殊高分子エマルジョンの添加によりコンクリート面への接着力に優れています。
- ▶ **耐透水・耐吸水性**
粒度調整による硬化体の緻密化及び高分子エマルジョンの成膜により、耐透水性や耐吸水性に優れています。
- ▶ **耐久性**
ポゾラン物質の添加により、長期的に安定した強度を保持します。
- ▶ **熱膨張係数・静弾性係数・長さ変化率**
熱膨張係数・静弾性係数が小さいため、温度変化による亀裂や剥離を防ぎ、収縮による亀裂の発生を抑制しています。

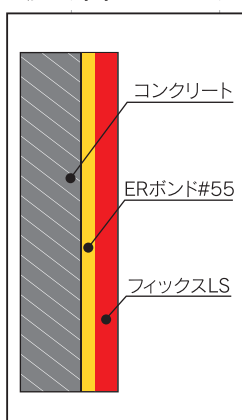
用途

- ▶ コンクリート構造物の欠損部断面修復
- ▶ 低温時・作業時間短縮時

配合及び材料使用量

配合	粉体	20kg
	混和液	2kg
	水	2.8～3.6kg
材塗り 使用別 量 (kg/m ²)	10mm	13.20
	20mm	26.40
	30mm	39.60
	50mm	66.00
練上り量		16.67ℓ
積算比重		1.320
1m ³ 使用量		1,320kg (60セット)

●施工図



●荷姿 (22kgセット)

- ・粉体 20kg
- ・混和液 2kg



日本建築仕上材工業会登録	
製品名	フィックスLS
登録番号	1306018
放散等級 区分表示	F☆☆☆☆
問合せ先	http://www.nsk-web.org/

施工要領

1. 下地処理

脆弱部や付着物の除去、亀裂処理等断面修復材の性能が低下しないよう十分な下地処理を行う。

2. プライマー塗布

下地とフィックスLSとの接着を高めるため、ERボンド#55を塗布する。フィックスLSの塗り継ぎで下層が硬化した場合も同様にERボンド#55を塗布する。ただし、表面が乾燥色*になるまでは、ERボンド#55を使用せずに塗り継ぎこともできる。この場合は、塗り継ぎ面を粗仕上げにし、塗り継ぎ時は十分にコテ圧をかけて材料を擦り付ける。

*乾燥色とは表層部の水気が失われ白っぽくなった状態のこと。硬化後2~5時間程度。硬化時間が早いほど乾燥色になるのも早い。

3. 混練

規定量を計量し、ハンドミキサーやモルタルミキサーで混練する(低速ミキサー推奨)。攪拌時間の目安は2~3分程度*とする。材料が均一になったら過度の攪拌はしない。
*低速ミキサー使用、混練量1/2~1セット以上の場合。攪拌時間はミキサーの種類、回転数や混練量等により調整して下さい。

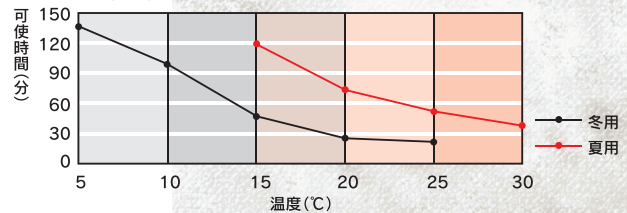
4. 塗り付け

ERボンド#55に糸を引くようなタックが出た段階でフィックスLSを塗り付ける。深い凹部がある場合は、先にその部分を充填する。コテで下地に薄く擦り付けた後に所定の厚みに塗り付ける(1層の厚みは最大20mm、小さな凹部は1層最大50mm程度)。モルタルの締り状態を確認し、適宜に金コテを用いて表面を平滑かつ緻密に仕上げる。

5. 養生

雨水等を選んで1日以上養生する。

● 温度と可使用時間の関係



■ 使用上の注意

- ・ご使用に際してはSDS(安全データシート)をよく読んで下さい。
- ・製品は直射日光、湿気を避け5~35℃で保管して下さい。
- ・夏用・冬用の2種類があります。冬用は5~20℃前後、夏用は20℃前後~35℃が使用温度の目安です。
- ・防錆仕様の場合は、1セットにつき400gのアルカード(亜硝酸リチウム水溶液)を配合して下さい。
- ・低温時、施工、養生中に5℃以下が考えられる場合は、凍害防止のため採暖を行って下さい。
- ・高温時、練上がり温度は35℃以下(望ましくは30℃以下)になるように冷水等で調整して下さい。
- ・長時間の直射日光が当たる場合や強風の場合はシート養生を行って下さい。
- ・混練に高速ミキサーを使用する場合は攪拌時間を調整し、エアを多く巻き込まないようにして下さい。エアを多く巻き込むと強度低下等の原因になります。
- ・混練にアルミ製の羽根は使用しないで下さい。
- ・練り水は水道水水質と同等のものを使用して下さい。不純物が硬化時間等に影響することがあります。
- ・一度練った材料の練り返しはしないで下さい。
- ・廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して下さい。

性能

● 温度と強度の関係

試験項目	材令	フィックスLS(冬用)		フィックスLS(夏用)	
		5℃	20℃	20℃	30℃
圧縮強度(N/mm ²) 試験方法 JIS A 1171	3時間	—	11.2	—	11.2
	5時間	5.4	—	5.7	—
	1日	15.8	16.3	18.5	17.7
	7日	21.3	22.5	22.4	23.2
	28日	30.2	32.5	32.0	32.7
曲げ強度(N/mm ²) 試験方法 JIS A 1171	3時間	—	2.8	—	3.1
	5時間	2.0	—	2.2	—
	1日	3.8	4.1	3.8	4.1
	7日	6.2	6.8	6.9	6.8
	28日	7.3	7.6	7.7	7.5
接着強度(N/mm ²) 試験方法 建研式	1日	1.32	1.42	1.27	1.42
	7日	1.81	2.20	2.05	2.35
	28日	1.96 (2.52)	2.50 (2.56)	2.35 (2.56)	2.50 (2.58)

()内はERボンド#55使用時 注)上記は当社実験室で試験を行った結果であり、品質保証値ではありません。

● 一般物性

試験項目	材令	試験結果	試験方法
硬化収縮率(%)	30日	0.04	NEXCO断面修復材料(左官工法)硬化収縮性試験方法
熱膨張係数(-20~60℃)	28日	1.4×10 ⁻⁵ /℃	NEXCO断面修復材料(左官工法)熱膨張性試験方法
静弾性係数(kN/mm ²)	28日	13.0	JIS A 1149(コンクリートの静弾性係数試験方法)
透水量(g) 0.01MPa 0.3MPa	28日	0.55	JIS A 1404
		1.55	(建築用セメント防水剤の試験方法)
表面水分量(%)	1日	6.4	高周波容量式水分計
	3日	4.5	塗り厚20mm: 温度20℃

注)上記は当社実験室で試験を行った結果であり、品質保証値ではありません。

● 本資料について

- ・本資料の技術情報は、当社の試験・研究に基づいたもので、信頼しうる情報と考えられます。しかし、記載の諸性能および特性などは、施工条件などにより本資料と異なる結果を生じることがあります。
- ・本資料の記載事項は予告なしに変更する場合がありますので、予めご了承下さい。

代理店



特殊セメントの分野を大きくリードする

エレホン・化成工業株式会社

EREWHON

<http://www.erewhon.co.jp/>

● 本社・工場	〒870-0141	大分県大分市三川新町1-2-23	TEL (097) 552-2251	FAX (097) 552-2213
● いわき工場	〒979-3112	福島県いわき市小川町上平字中平30-3	TEL (0246) 83-2600	FAX (0246) 83-2677
● 札幌支店	〒532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原5-1-3	TEL (06) 6842-7500	FAX (06) 6842-7544
● 福岡支店	〒814-0151	福岡県福岡市城南区堤1-9-10	TEL (092) 874-6990	FAX (092) 862-6398
● 関東支店	〒224-0003	神奈川県横浜市都筑区中川中央2-5-13-3F	TEL (045) 534-9656	FAX (045) 534-9657
● 仙台支店	〒984-0012	宮城県仙台市若林区六丁の目中町6-2	TEL (022) 287-7221	FAX (022) 287-7222
● 名古屋支店	〒463-0048	愛知県名古屋市中区小幡南3-5-21	TEL (052) 758-1889	FAX (052) 758-1890
● 札幌営業所	〒007-0805	北海道札幌市東区東苗穂5条3-2-32	TEL (011) 786-6051	FAX (011) 786-6052
● 新潟営業所	〒950-0963	新潟県新潟市中央区南出来島1-10-23	TEL (025) 280-9282	FAX (025) 283-6262
● 静岡営業所	〒422-8058	静岡県静岡市駿河区中原743-1-1F	TEL (054) 270-9380	FAX (054) 270-9381
● 北陸営業所	〒920-0027	石川県金沢市西新町2-11-25	TEL (076) 204-9417	FAX (076) 204-9418
● 広島営業所	〒739-1731	広島県広島市安佐北区落合2-41-22	TEL (082) 841-2350	FAX (082) 841-2360
● 熊本営業所	〒861-8045	熊本県熊本市東区小山2-14-47	TEL 050-3399-7419	FAX (096) 388-6227
● 鹿児島営業所	〒890-0082	鹿児島県鹿児島市紫原1-51-25	TEL (099) 284-0533	FAX (099) 284-0535
● ㈱エレホン・技研本社	〒781-0270	高知県高知市長浜5226-13	TEL (088) 805-2332	FAX (088) 841-2322
● ㈱エレホン・技研松山営業所	〒791-8042	愛媛県松山市南吉田町1450-6	TEL (089) 974-8225	FAX (089) 974-8230